



いぎ まもる 議員 井木 守

資源化の徹底でごみを「焼く」ことから脱却を

議員 市として積極的かつ継続的なごみの資源化、減量化を市民に提起しなかったことが減量化の目標未達成の原因ではないか。

市長 市民意識調査の結果では、分別する人としていない人で二極化している。世代別では若い世代で減量化、資源化の取り組みが低い傾向がある。ごみの排出量が多くなる若い世代に減量化や分別化の意識を普及啓発することが喫緊の課題と考える。

議員 新しい焼却場をつくると、また大きなコスト負担が生じる。資源化の徹底でごみを「焼く」ことから脱却する必要があるのでは。

市民生活部長 大きな方向として、まずは資源化そして減量化ということはあるつもりはない。



市民要望に基づいた図書館を

議員 市民要望に基づいた新図書館の建設を検討すべきだ。現在の図書館に対するオーブンテラス等の計画は見直し、予算は図書資料の充実に使うべきでは。

市長 第7次総合計画では、新図書館の構想も含めて検討する予定である。ワークショップ等により、市民の要望を反映した愛される図書館建設を目指したい。なお、総合計画での新図書館の具体化にはまだ時間がかかり、それまでは、今の図書館でできる限りのことをやっていくという思いで検討している。



おもとくにみつ 議員 大本 邦光

ひきこもり状態の若者に対する支援を

議員 ひきこもり問題に対しては、少子高齢化の急速な進行や近所づきあい希薄になるなど、地域社会が変化の中で、住民の課題解決に奮闘されている各地区の民生委員さんと行政が、より一層連携する必要があると思うがどうか。

健康福祉部長 地域の実情をよくご承知の民生委員さんや愛育委員さんをはじめ、様々な方のアンテナでもって受けとめ、支援する仕組みを作っていきたい。

鳥獣被害防止の取り組みを

議員 鳥獣被害防止特措法に基づき、市では鳥獣被害対策実施隊を設置できるが、今後の考えをたずねる。



市長 既に設置しており、現在は市職員17名で活動している。今後は地元猟友会から選抜推薦された班員を受け入れ、鳥獣被害対策の拡充と農作物の被害軽減を図っていく。

議員 捕獲鳥獣のジビエの活用による地域活性化に向けた取り組みと、それにもなう処理加工の施設整備の考えは。

建設産業部長 県南では捕獲頭数が少なく、市場に出回るほどの肉のボリュームではないのかもしれないが、有効活用の観点からも、今後猟友会と話をしていく。また、処理施設の整備については、高梁川流域圏での課題として挙げて、共同の施設ということになれば、採算の面でも若干可能性が見えてくるのかと思うので、今後の検討課題とさせていただきます。